



「育てたように育つ」

昨年、育てていたマリーゴールドからタネをとって、保存してありました。マリーゴールドのタネは、一般に想像する植物のタネとは、形状が異なっています。中央下の写真（9本並んで見える細いものがマリーゴールドのタネです）。

マリーゴールドは、3年生の理科の学習でもハウセンカやヒマワリとともに栽培する植物のひとつとして出てきます。春先にタネを植えたのが、5月、6月と10cmから15cmくらいに育ってきていました。その辺りから、徐々につぼみが見られるようになりました。少し比較してみようと考え、苗を2グループに分け、Aグループは、そのまま育て、Bグループは、芽かきなどの手入れをこまめにしました。するとどうでしょう?! 7月頃になると、見事にBグループの苗の方が大きく、しかもたくさんの花を咲かせるようになりました。土や肥料の具合、水やりは同じようにしました。植物は正直です。「人が育てたように育ちます。」水やりを怠るとしおれてしまい、肥料が多すぎても少なすぎても、上手く育ちません。同じように育てたように思っている、ちょっとした違いで上手く育たないこともあります。不思議なものです。

9月も半ばを過ぎましたが、運動場北西の花壇に植え替えたマリーゴールドがたくさん咲いています。Bグループのものも少しずつAグループの苗の生長に追いついてきましたが、若干、小さめです。どちらも、また、タネがとれ、来年たくさん花を咲かせてくれればと願っています。以前に読んだ子育て関係の書物に「子どもは、こんな風に育ててほしいと思うようには、なかなか育たない。でも、自分が育てたように育つ。」というような意味のことが書いてあった記憶があります。この言葉に深い意味を感じました。もちろん、子育ては、植物の栽培とは異なりますが、どちらもそう簡単なことではありません。だからこそ、根気よく、粘り強く接していくことが大切なのかもしれません。



<マリーゴールドの種子>

写真右端：花が乾燥したものの。
中央9本：一つ一つの種子。
1個ずつの長さは、花びらの部分を含めて約20mm。

<児童、緊張して！？職員室へ>

子どもたちが教室のカギを取りに来たり、教員に用事があったりして職員室に来ることがあります。

そんな時、ある子は緊張した面持ちで、ある子はリラックスした感じで来ます。ほとんどの子に共通しているのは「失礼します。
〇年〇組の〇〇です。～～しに来ました。はいっていいですか。」としっかりと伝えることができます。慣れない子や低学年の子は緊張しすぎてうまく言えないこともありますが、言い方を丁寧に伝えていきます。礼儀をわきまえて行動することも大切です。徐々に身につけてほしいと思います。

<デジタル配信開始>

一部の配布物のデジタル化を始めました。デジタルでの配布物がある場合、連絡帳には、

(例) ①1枚

②または③2枚

というような記述をします。紙面での手紙が1件、デジタル配信(クラスルーム)での手紙が2件ありますという意味です。ご確認をお願いします。